



さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO.6 令和5年12月19日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

12月15日、子どもたちが待ちに待ったクリスマス会がありました。全学年揃ってのクリスマス会は4年ぶり、クリスマス会前日は、職員一同ソワソワ、ワクワクしながらイルミネーションの飾り付けを行いました。クリスマス会は、先生たちの楽器演奏「おもちゃのチャチャチャ」で始まりました。星組さんが劇や合奏を披露してくれたり、保護者の方によるピアノ、バイオリンの演奏を聴いたりしました。そして、イルミネーション点灯式、皆の「3・2・1」の合図で真っ暗な遊戯室が、ライトアップしました。子どもたちは目を輝かせ「綺麗～」と思いきいに言葉にしていました。楽しい時間を過ごしていると、どこからか鈴の音が…すると、ライトアップした遊戯室にサンタクロースが来てくれました。子どもたちは、ビックリして口が開いたままでの子どももいれば、サンタさんに聞きたいことがたくさんあり、前のめりの子どももいて子どもたちの嬉しさが伝わってきました。サンタさんが一人一人にプレゼントを手渡ししてくれ、「あわてんぼうのサンタクロース」の曲のプレゼントを子どもたちからしました。

子どもたちにとって忘れられない嬉しい会となりました。クリスマスって子どもに夢や笑顔を与えてくれる特別な行事だと、改めて感じる瞬間でした。ご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



サンタさんに会えた♡(花組)

クリスマス会を終え、クラスに戻るとサンタさんに会えた嬉しさが止まらない子どもたち。「先生～サンタさん赤色が好きだって、Aちゃんと一緒にだ！」「サンタさん、ソリでトナカイと来たんだって…トナカイにも会いたかった。」「お母さんに絶対話す。今日のこと絶対話す。」と頭がサンタさんでいっぱい、話が止まらない子どもたちでした。中には、何度もバックから、サンタさんからもらったプレゼントを出しては、「サンタさんありがとう。本当にありがとう。」とプレゼントを抱きしめる子どももいれば、「僕が頼んだプレゼントはこれじゃないんだ。もっと大きいものなのに、サンタさん間違えてる～」とシクシクと泣き出すBくんの姿もありました。保育者が、「サンタさん、クリスマスの日にもまた来るね。ってこっそり伝えてくれたよ。」と泣

いていた子どもに言うと、目を輝かせて、「これ、先生がサンタさんにお願したプレゼントなん。サンタさんにありがとうまた来てねって手紙が書きたくなった。」とすっかり笑顔に戻るBくんでした。

花組さんは、初めての運動会、初めての遠足、初めてのクリスマス会とたくさん行事を経験した2学期でした。その中で、心も体も大きくなっていったなと感じる日々です。3学期も、たくさん経験を積む中で、友達と一緒に楽しいと感じ、自分たちの好きな遊びを広げていってほしいと思います。2学期もありがとうございました。(尾川)

みんなで楽しいね♪(風組)

2023年も残りわずかとなりました。2学期は実習生と過ごしたり、運動会や登山遠足、お月見会、クリスマス会をしたりと楽しいことがたくさんありました。

12月に入り、シール帳の新しいシールを見た瞬間「うわあ、かわいい！」と目をキラキラさせながら言うAちゃん。12月はトナカイや、クッキー坊や、サンタさんの帽子などクリスマスイメージさせるようなシールで、何だかワクワクします。「12月はクリスマスだね。」と、一気に気分はクリスマス。サンタさんの話も子どもたちから出てきたので、『あわてんぼうのサンタクロース』をお帰りで歌いました。みんなで歌っていると「リンリンリン」や「チャチャチャ」の歌詞に合わせて手拍子が聞こえ始めました。「何だか手をたたき音がしてきて楽しい感じだったね！」と保育者が言うと、Bくんが「歌に合わせてチャチャチャってやってみたんよ。なんか叩きたくなって。」と教えてくれました。そこで次の日、タンバリン、鈴、カスタネットを準備して好きな楽器を持ち、みんなで鳴らしてみました。始めは思いつきに楽器を鳴らしていましたが、自然と「リンリンリン」「ドンドンドン」「チャチャチャ」「シャランラン」のリズムに合わせて音を鳴らすことを楽しんでいました。「楽しい！」と子どもたち。次の日はトライアングルも用意し、朝からテーブルに並べて置いてみました。すると、一つずつ鳴らしてみる子、思いつき鳴らしてみる子、友達と一緒に合わせてみる子、いろいろな楽器との触れ合い方をしていました。楽器を鳴らしていたCちゃんが「ねえ先生、『あわてんぼうのサンタクロース』かけて。」と言い、その場にいた子どもたちで合奏が始まりました。「ここは合わせよう。」とCちゃんが言い、顔を見合わせてニコニコしながら演奏する3人。あるときは、Dくんが指揮者になり「はい！ここよ！」と叩くところを指示してみんなで合わせる姿も見られました。お帰りでやると、「リンリンリン」のリズムを意識する子どもたちが多くなったようで、前日よりみんなの楽器が揃ってました。楽しみながらも、そこに合わせようとして一生懸命楽器を鳴らす姿は、リズムを(友達と)合わせる＝友達のこと意識しているんだなと感じました。「そこは鳴らさない方がいいんじゃない？」「それいいね！」「え～いいじゃん、他も鳴らしたいよ。」「合わせた方がきれいじゃん！」と色々な思いが飛び交い始めるのですが、そうやって自分の思いを表現できるのも素敵ですね。「みんなでやると楽しいね！」「先生、もう1回やりた～い！」そんな言葉に嬉しくなりながら、子どもたちの「楽しい」「嬉しい」をもっと一緒に感じていきたいなと思っています。



いろいろな場面で、1学期よりも相手の思いに気づき、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる姿が見られ、子どもたちの心の成長を感じた2

学期でした。3学期もよろしくお願いたします。(田中)

みんなで話し合いながら(星組)

2学期は、運動会や登山遠足、秋野菜の収穫にクッキングなど…たくさん楽しい行事があり、その中では星組ならではの体験が多くありました。子どもたちは、それぞれの力を発揮して頑張ったり、話し合ったり分担したりしながら友達と協力して取り組もうとしたり、一つ一つやり遂げていく度に達成感を味わっている様子でした。その気持ちが次への意欲や自信につながって、生活や遊びの中でも“自分達で進めていこう”とする姿が増え、思いや考えを出し合いながら実現していく過程に充実感を感じ始めているこの頃です。

そんな日々を過ごしている降園前の集まりの時、クリスマス会の話になりました。今年のクリスマス会で星組の劇を見た子どもたちが思い出したことを口々に話し始めます。1学期から好きな遊びの中で、プリンセスや悪者が出てくる簡単なお話をしたり、アイドルやポケモンなどの好きなキャラクターのショーを開いたりすることを楽しんでいたり、ほとんどの子どもたちが「自分達も劇がやりたい！」という気持ちに向かっていました。「どんなお話がいいかな？」と保育者が尋ねると「クリスマス会だから、サンタさんが出てくる話がいい」「じゃあ、わたしはトナカイになりたい」「プレゼントをもらう人がいるね、子どもの役があるの？」「あ、いいこと思いついた。泥棒が出てくるのはどう？」「どんな風に？」など…どんどん思いついたことを言い合いながら、ストーリーが具体的にになっていきます。「ああしよう、こうしよう」といろいろなアイデアが出てくる分、なかなか決まらないこともありましたが、とことん話し合った末に「それ、いいね！」「そうしよう！」と意見が一つになった瞬間、そこには一体感があり、子どもたちの中での気持ちの高まりを感じました。話し合いが盛り上がり、次の日に持ち越しになることも多くありましたが、子どもたちは輪になってみんなでの“作戦会議”を積み重ね、オリジナルストーリーをつくり上げていきました。



話し合いで出たイメージの実現に向けて、それぞれの役に必要なものを自分達で考えながら、友達と一緒に衣装や道具をつくってきました。日々過ごす中で子どもたちは劇の他にもしたいことがたくさんあり、同じ役の子ども同士で準備する時間を調整しながら進める子どもの姿もありました。次第に劇に必要なものがそろい、役になりきりながら話を進めていく中で「妖精が魔法を使えるようにしよう」「最後はみんなでパーティーをしよう」など新たなアイデアもたくさん生まれました。なりたい役が見つからなかった子どもも「音楽がしたい」「ナレーターをしてみようかな」など自分ができそうなという役を見つけ、緊張はあるものの次第に笑顔で参加していくようにもなりました。

クリスマス会当日は、残念ながらお休みの人もいましたが、その友達の間も自分達で補い合い、助け合いながら劇を進め、花組や風組の子どもたちからたくさん拍手をもらって満足そうな顔が見られました。

自分の考えを伝えるとともに友達の考えにも触れながら、新しい考えを生み出し、共につくり上げる楽しさを味わった子どもたちはまた一つ大きくなったように思います。(中野祐)

3学期も子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思ひます。

新年もどうぞよろしくお願致します。良いお年をお迎えください。

(編集：尾川)

